

electro-harmonix

TRI PARALLEL MIXER

Effect Loop Mixer / Switcher

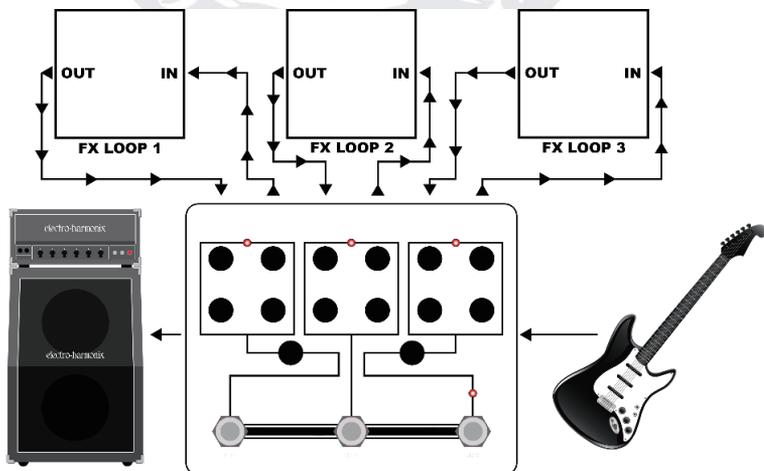
Electro-harmonix Tri Parallel Mixerをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

Tri Parallel Mixerは多様性に富んだスイッチングとミキシングのアプリケーションを可能にする様々なシステムの構築が可能です。3系統のセパレート・エフェクトループを切り替えたり、ミックスすることができます。Tri Parallel Mixerに入力したギターやその他の楽器を3系統のアンプに出力したり、反対に3系統の楽器入力を切り替えたりミックスして、1系統のアウトプットから出力することも可能です。パラレル接続では、シリーズ接続では不可能だったミックスエフェクトを可能にします。下の図はTri Parallel Mixerの様々なセットアップのうちのいくつかの接続例です。

注意： Tri Parallel Mixerにはelectro-harmonix 9.6DC-200mAアダプターが付属します。Tri Parallel Mixerの消費電力は9VDCセンターマイナス/45mAです。間違ったアダプターを使用すると故障の原因となり、保証対象外となりますのでご注意ください。

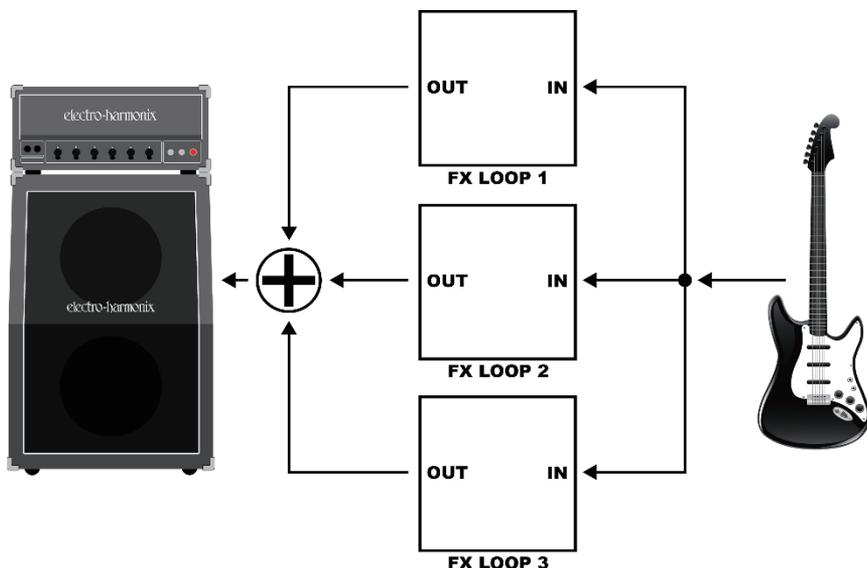
Tri Parallel Mixerの使用方法について

Tri Parallel Mixerの左上に配置されている9VDCジャックに付属のアダプターを接続します。セットアップの構成には様々な方法がありますが、最も一般的な方法を以下に示します。下図は3つのセパレート・エフェクトループの切替やミックスを行うスイッチングです。



この構成は、ギターやその他の楽器、音源などをTri Parallel Mixerの右側面に配置されているINPUTジャックに接続します。アンプやその他のデバイスのインプットと左側面に配置されているOUTPUTジャックを接続します。すべての接続には標準的な1/4" フォンプラグのケーブルを使用してください。

FX LOOP 1に接続する最初のエフェクトのインプットとSEND 1ジャックを接続します。FX LOOP 1内の最後に接続するエフェクトのアウトプットとRTN 1ジャックを接続します。このステップをFX LOOP 2、3でも繰り返します。下図は上記接続方法の信号経路です。



CH1～3フットスイッチを使用してそれぞれのエフェクトループをONにします。いずれかのフットスイッチをダブルタップすることでマスターバイパス機能が有効になり、INPUTとOUTPUTジャックが直接接続されます。バイパス時、いずれかのフットスイッチを押すとマスターバイパスが解除されます。他のスイッチングオプションや構成オプションについては後述をご覧ください。

共通のコントロールとインプット/アウトプット

INPUT - このジャックはTri Parallel Mixerの右側面に配置されているマスターインプットです。入力された信号は、ONになっているエフェクトループのSENDジャックから出力されます。マスターバイパス時、入力された信号はOUTPUTジャックに直接出力されます。

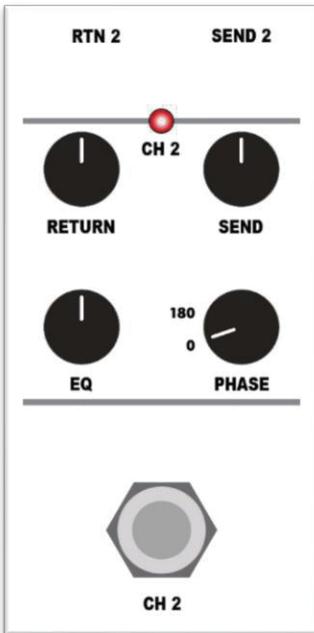
OUTPUT - このジャックはTri Parallel Mixerの左側面に配置されているマスターアウトプットです。

MASTER VOL - このノブはTri Parallel Mixerのマスターのアウトプットレベルをコントロールします。

DRY VOL - このノブはTri Parallel MixerのOUTPUTに送り出すドライシグナルのバランスを設定します。

MASTER STATUS - このLEDはTri Parallel MixerがONのときに点灯し、マスターバイパス時は消灯します。3つのフットスイッチのいずれかをダブルタップするとアクティブからバイパスに切り替わります。バイパス時にいずれかのフットスイッチを1回押すとアクティブに切り替わります。Tri Parallel Mixerはバッファード・バイパス仕様です。

各チャンネルのコントロールとインプット/アウトプット



Tri Parallel MixerのSEND/RTNジャック、SEND/RETURNレベルコントロール、EQコントロール、PHASEスイッチ、そしてフットスイッチなど半数以上のコントロールは同一のチャンネルセクションに1つのグループとして配置されています。

SEND 1/2/3 Jack - チャンネルがONのとき、Tri Parallel MixerのINPUTから入力された信号を出力します。アウトプット・インピーダンスは220Ωです。

SEND Knob - SENDジャックからの出力レベルを設定します。

RTN 1/2/3 Jack - 各チャンネルのインプットジャックです。チャンネルがONのとき、入力された信号はEQコントロールのあとのOUTPUTに送り出されます。インプット・インピーダンスは1MΩです。

RETURN Knob - このノブはTri Parallel MixerのOUTPUTに送り出される前のRTNジャックで入力された信号のレベルを設定します。

PHASE - このスイッチはSENDジャックから送り出される信号の位相を180度反転させます。これはドライシグナルや他のエフェクトループをミックスさせた際に発生する位相によるトラブルの解消に有効です。

EQ - このノブはRTNジャックに入力された信号のトーンキャラクターを変化させます。ノブが12時方向のときは変化しません。ノブを右方向に回すと高域が強調され、よりブライต์なサウンドになり、左方向に回すと低域が強調され、よりダークなサウンドになります。

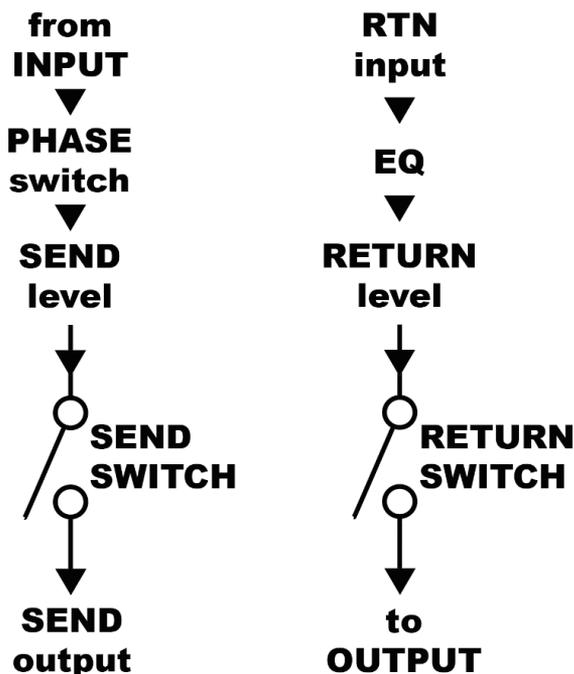
CH 1/2/3 Footswitch - 各チャンネルのON/OFFを切り替えます。これらのスイッチのいずれかをダブルタップするとマスターバイパス・モードに切り替わります。バイパスモード時、いずれかのスイッチを1度押すとアクティブモードに切り替わります。これらのスイッチは、後述の他の機能を切り替えることも可能です。

CH 1/2/3 LED - LEDは各チャンネルがONの場合、点灯します。異なる機能を示す際にLEDが点滅する場合がありますが、詳細は後述の説明をご覧ください。

※チャンネルがOFFでも特定のSEND、もしくはRTNジャックで信号がONになる使用方法があります。これらの詳細は後述のアドバンスド・スイッチング オプションをご覧ください。

— アドバンスド・スイッチングオプション —

前述のアドバンスド・スイッチング オプションを説明する前に、特定のチャンネルの信号経路を視覚化するとわかりやすいです。



3つすべてのチャンネルをこの方法でセットアップします。初期設定では、ONになっているチャンネルのSENDスイッチとRETURNスイッチはクローズになっており、信号が通過するようになっています。特定のチャンネルがOFFのとき両方のスイッチはオープンになり、信号を遮断します。アドバンス・オプションはこの性質を変化させ、Tri Parallel Mixerの実現可能なアプリケーションを拡大します。

BOTH, SEND, & RETURN ミュート・モード

これらは各チャンネルを独立して設定できる3タイプのミュート・モードです。初期設定のモードは上記で説明したBOTHモードであり、チャンネルがOFFのときはSENDとRETURNの両方がミュートされます。

2つの他のモードは：

SENDミュート - このモードはチャンネルがOFFのときにSENDスイッチのみオープンとなります。RETURNスイッチは常にクローズの状態となります。ディレイやリバープのようなエフェクトをループに入れチャンネルをOFFに切り替えた際にテイルやディケイといったエフェクトの自然なフェードが欲しい場合に有効です。

RETURN MUTING - このモードはチャンネルがOFFのときにRETURNスイッチのみオープンとなります。SENDスイッチは常にクローズの状態となり、チャンネルがOFFの場合でもSEND1、2、3からは常に信号が出力されます。

これらのモードの切替方法は：

- 1) 3つのうちの1つのフットスイッチを3つのLEDがすべて点滅するまで長押しします。
- 2) 特定のフットスイッチを押すと、LEDの点滅スピードが変わります。
- 3) これらの3つの点滅スピードは、3つのミュートモードを示します。最も遅いスピードに設定した場合はBOTHミュートモード、中間のスピードがSENDミュートモード、最も速いスピードがRETURNミュートモードとなります。
- 4) チャンネルを目的のモードに設定が完了したら、LEDの点滅が停止するまで、3つのフットスイッチのうちの1つを長押しします。

AND / XORモード

初期設定では、特定のチャンネルは他のチャンネルの状態に影響することなくON/OFFできます。これをANDモードと呼びます。Tri Parallel MixerはXOR(exclusive or)モードも設定が可能です。このモードは3つのチャンネルのうち1つがONになるモードです。

1つのチャンネルをONにすると他の2つのチャンネルは自動的にOFFになります。Tri Parallel Mixerをミキサーとしてではなくスイッチャーとして使用する場合に効果的です。

このモードへの切替は：

- 1) CH1とCH2、もしくはCH2とCH3を3つのLEDが点滅するまで長押しします。
- 2) LEDが一斉に点滅した場合はANDモード、順番に点滅をした場合はXORモードを示します。
- 3) 設定を変更するには、3つのフットスイッチのうちのいずれか1つを押します。
- 4) 設定の変更が完了したら、LEDの点滅が止まるまで、3つのうちのいずれ1つのフットスイッチを長押しします。

ファクトリーリセット

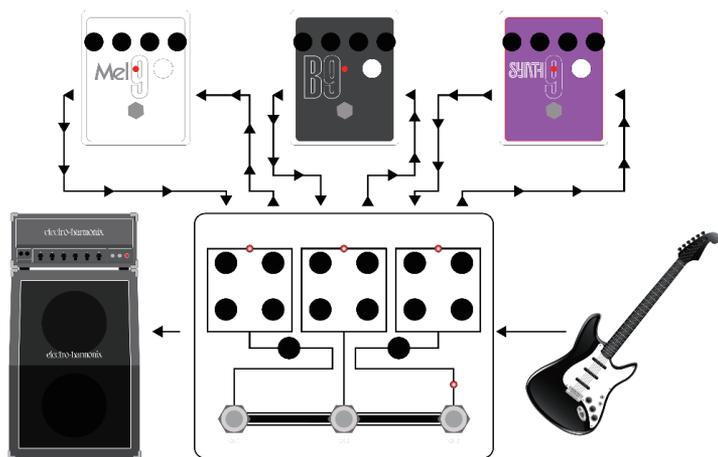
電源を投入すると、Tri Parallel Mixerはアクティブのチャンネルや現在のミューティングモード、AND/XORモードなどの最後に使用した状態が記憶されています。

下記ステップに従いファクトリーリセットを行うことで、簡単に初期設定にリセットすることが可能です。

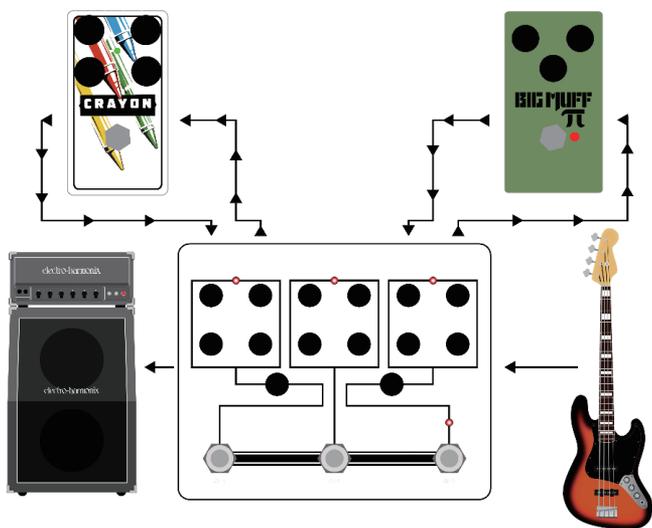
- 1) Tri Parallel Mixerから電源を抜きます。
- 2) CH1とCH3フットスイッチを長押しします。
- 3) スイッチを長押ししたまま電源を入れます。
- 4) 4つすべてのLEDが約0.5秒程度点灯し、トップの3つのLEDが消灯します。これでファクトリーリセットは完了です。

－ パラレルエフェクト・ミキシング －

複数のエフェクトペダルを使用する際の伝統的なセットアップは、アウトプットから次のインプットへと接続するシリーズでの構成です。この構成はエフェクトチェーンの前半で作成されたサウンドは、エフェクトチェーンの後半に大きく影響します。Tri Parallel Mixerはパラレル(並列)でのエフェクトの使用を可能にし、各エフェクトに独立した信号を入力し、その後組み合わせることができます。シリーズ・エフェクトでは実現できなかったトーンオプションを可能にします。次ページにいくつかの例を示し、解説します。



上記接続例はelectro-harmonix 9シリーズからMel9、B9、Synth9を3つのセパレート・エフェクトとして使用でき、メロトロン、オルガン、シンセサイザー、そしてギタートーンを並列で組み合わせることが可能です。



上記接続例はベースに全く異なる2つのオーバードライブをパラレルで組み合わせることでフルレンジかつユニークなベースディストーショントーンを作り出せます。搭載されているDRYコントロールを使用すればベースのナチュラルなローエンドを保つことも可能です。

その他の構成

次の2、3ページで、Tri Parallel Mixerのその他の構成可能なアプリケーションをいくつか示し、ユニットのさまざまな使用方法を説明します

Figure 1

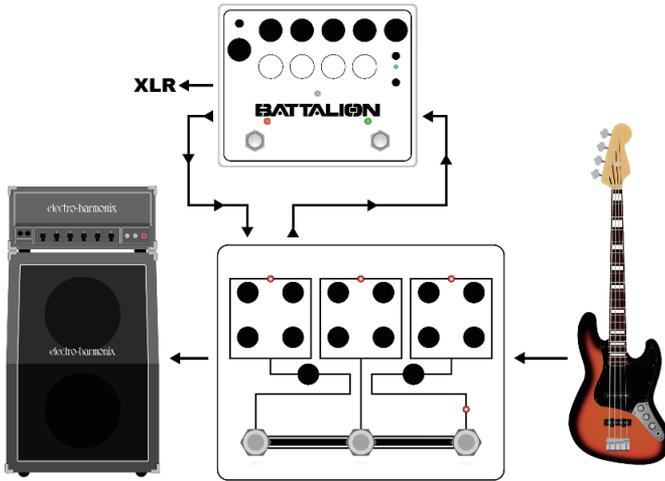


Figure 2



Figure 3

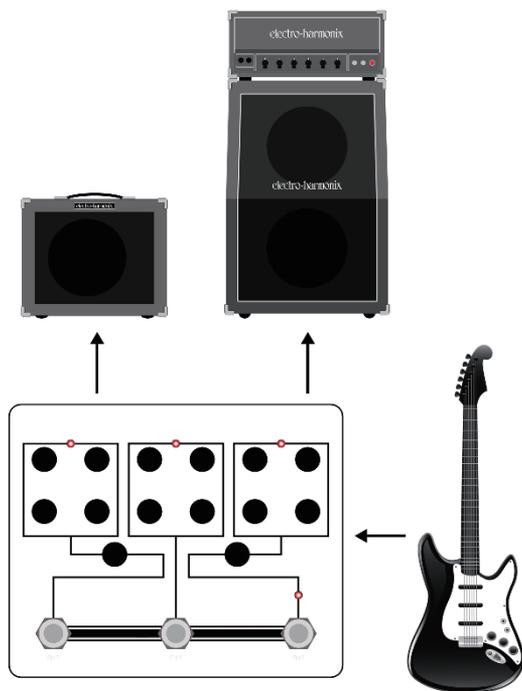


Figure 1: RETURNミュートモードを使用した接続例です。チャンネル1がOFFのとき、ベースからの信号はSEND1ジャックから送り出され、electro-harmonix Battalion Bass Preamp/DIに入力されます。信号は常にBattalionのXLRアウトから出力されますが、アンプからの出力はチャンネルがONのときのみとなります。

Figure 2: Tri Parallel Mixerをインプットセレクターとして使用する接続例です。それぞれの楽器を各チャンネルのRTNジャックに接続し、Tri Parallel MixerをXORモードに切り替え、使用する楽器を選択します。RETURNノブを使用して、チャンネルごとに楽器のレベルを調整してください。

Figure 3: Tri Parallel Mixerを使用してギター信号をセパレートした2台のアンプに送り出す接続例です。ギター信号を2台のうちどちらか一方、もしくは両方に瞬時に切り替えて送り出せます。SENDノブを使用して各チャンネルごとにアンプへ送り出す信号のレベルを調整できます。

MEMO





——— 正規輸入代理店 ———

株式会社 キョーリツコーポレーション

〒468-0002

愛知県名古屋市長白区焼山 1 丁目 813 番地

E-MAIL : support@kyoritsu-group.co.jp